

想定した整備効果等

整備後の状況

【直接効果】

- 2 安全安心の確保
- (3)交通安全の向上

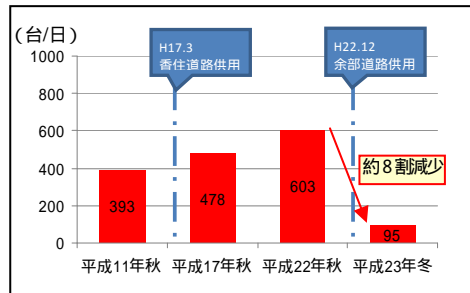
旧道の大型車交通量は約8割以上減少し、幅員狭小区間が多い香住市街地の通学生等の安全性が向上した。
本道路の供用により、旧道の事故件数が減少している。

【写真】旧道(国道178号)香住区矢田(整備前)

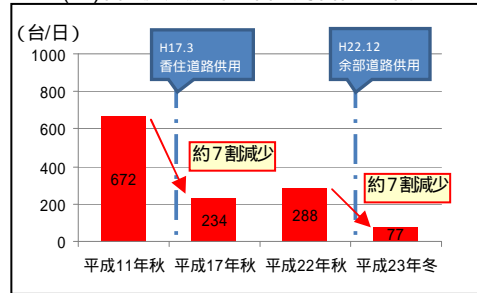


1日当たり大型車交通量の変化

国道178号 香美町香住区下浜



(主)香美久美浜線 香美町香住区沖浦

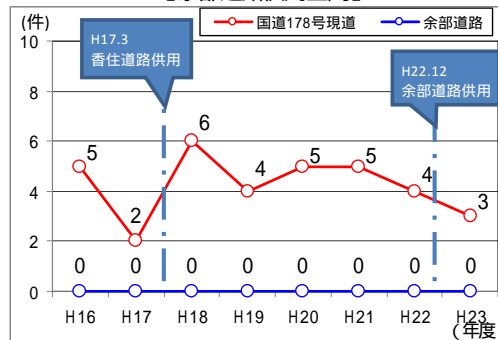


資料：道路交通センサス、H23年交通量調査資料



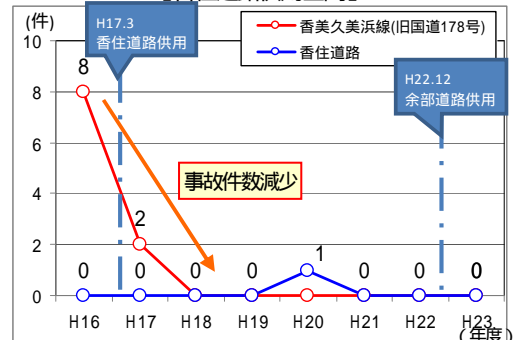
死傷事故件数の変化

【余部道路供用区間】



余部道路：香住 IC～余部 IC
国道178号旧道：香住小学校前交差点～余部 IC 交差点

【香住道路供用区間】



香住道路：佐津 IC～香住 IC
(主)香美久美浜線(旧国道178号)：佐津交差点～香住小学校前交差点

資料：事故統合データベース [センサス区間別] (H16年度～H23年度)

想定した整備効果等

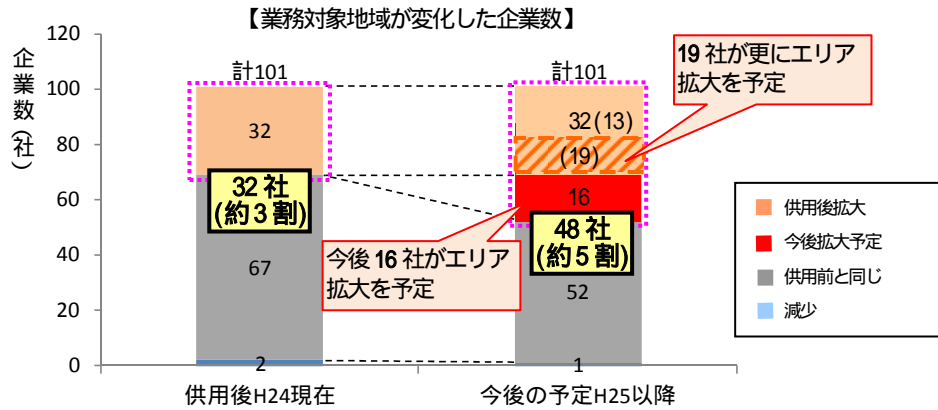
整備後の状況

【間接効果】

1 産業の活性化
(産業活動の拡大)

本道路の整備により、新温泉町や香美町内の約3割の企業では、既に業務対象エリアが拡大している。
今後の予定を含めると、業務対象エリアを拡大する企業は、約5割に及んでいる。

アンケート調査結果：香住道路および余部道路開通に伴う業務対象エリアの変化



資料：H24 アンケート調査資料(兵庫県)

ヒアリング調査結果

漁 協：移動時間が短縮されると出漁時間の拡大につながり、漁獲高がアップする。
 今後は、東方面への販路拡大を計画している。
 農 協：以前は国道9号回りで豊岡方面へ農作物を搬送していたが、搬送時間が短縮されたため、余部道路・香住道路等を利用する国道178号ルートに変更した。

【間接効果】

2 観光の振興
(観光利便性の向上)

「山陰海岸ジオパークまるごと体感MAP」に山陰近畿自動車道（香住道路・余部道路）がジオパークロードとして位置づけられるなど、観光振興に寄与している。

山陰海岸ジオパークまるごと体感MAP



事業実施による周辺環境への影響

貴重種の適切な保存

- ・本道路は、環境影響評価（環境アセスメント）を実施しており、工事中の濁水対策や貴重植物の移植等の環境対策を実施している。余部道路では、供用後も貴重動物の生息状況確認調査、貴重植物の移植後モニタリング調査などの事後監視調査を実施し、適切な環境対策を実施している。
- ・貴重動物の事後監視調査では、ヒダサンショウウオ等の計8種の生息状況確認調査を実施しており、事業実施による生息状況への大きな影響は認められていない。但し、ムカシトンボについては、一部、事後監視調査時に個体が確認されていないため、平成26年度に再調査を実施することとしている。
- ・貴重植物の事後監視調査では、アケボノシュスラン等の計4種の移植作業およびモニタリング調査を実施しており、移植成功の確認や、事業地周辺の再調査による個体の確認、種子の長期保存など適切な措置を講じている。

郷土在来種による植生の早期回復

- ・動植物の生息や生育基盤である植生の改変による影響を低減するため、工事前に採取した表土や種子、株を工事完了後に移植するなど、郷土在来種による植生の早期回復を図っている。



(移植用株の採取)



(株の移植)

特徴的な取組み

(1) 積極的な事業PR

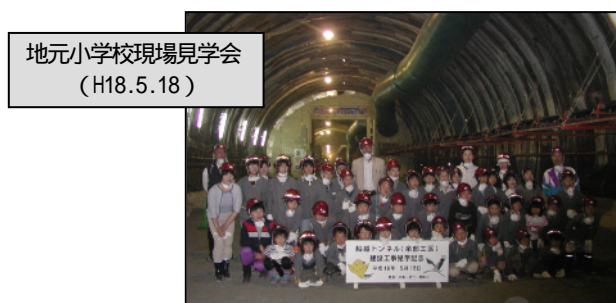
- ・地域住民や地元小学生などを対象に、工事中の現場見学会や、供用前に開通記念ウォーキングを実施するなど、積極的に事業PRを実施した。



地元幼稚園現場見学会
(H18.9.21)



船越トンネルウォーキング
(H21.11.29)



地元小学校現場見学会
(H18.5.18)

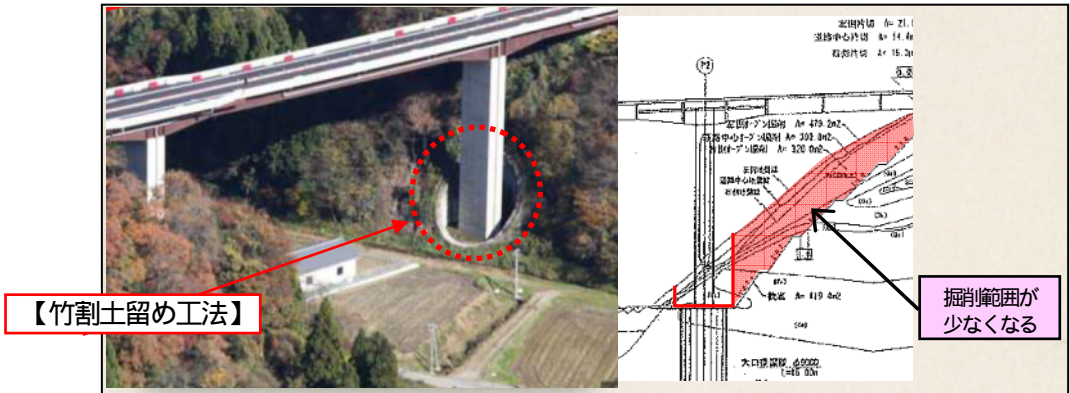


開通記念ウォーキング
(H22.11.28)

(2) 新技術・新工法によるコスト縮減

- トンネル間の谷部の橋梁において、急峻な斜面上に橋梁下部工を施工するに当たり、通常の切土工法では掘削範囲が拡大となってしまうため、竹割土留め工法を活用し、斜面掘削範囲を最小限に抑え、コスト縮減(約150万円/箇所)を図った。

【竹割土留め工法】



(3) 「山陰海岸ジオパーク」と連携した観光振興

- 平成22年10月に世界ジオパークネットワークに加盟認定された「山陰海岸ジオパーク」では、地域の活性化と持続可能な地域社会の形成を目的に、幅広い分野でのジオパーク活動の一層の展開を図っている。
- 山陰近畿自動車道においても、京都府、兵庫県、鳥取県の3府県により、本道路の愛称を「ジオパークロード」とし、山陰海岸ジオパークの知名度向上をはかり、観光振興、地域振興を目指している。



改善措置の必要性

- 移動時間の短縮や交通渋滞解消等による交通の円滑化、異常気象通行規制区間の代替ルート確保や3次救急医療施設へのアクセス性向上等による安全・安心の確保、産業振興や生活環境の改善等の整備効果が発現していること、また、アンケート結果から高い満足度が得られていることから、特段の措置は必要ない。
- 但し、この度、地元企業に実施したヒアリングにおいて、山陰近畿自動車道の整備による売上げ・販売圏域の拡大を期待する声が多いことから、現在推進中の浜坂道路を含め、山陰近畿自動車道の早期整備により、地域産業の活性化および観光振興をより一層支援していく必要がある。

同種事業の計画・調査・事業実施のあり方、事業評価手法の改善等

事業PRの取り組み

- 本事業では、地域住民や地元小学生などを対象に、推進中の工事の現場見学会や、供用前に開通記念ウォーキングを実施するなど、積極的に事業PRを実施してきた。
- 山陰近畿自動車道は、広域高速道路ネットワークの形成に加え、産業の活性化や観光振興等の地域振興の役割も担う道路である。今後は、より多くの利用者に「ジオパークロード」を活用してもらうため、工事の進捗状況等の情報も含め、より広く事業PRを行う必要がある。

事業概要等の変遷

香住道路

【平成 15 年度（再評価）】

総事業費 C=約 335 億

事業期間 H6～H16

計画延長 L=6.2km

計画幅員 車道部 7.0m（2 車線）

【平成 16 年度（事業完了）】

総事業費 C=約 323 億

事業期間 H6～H16

計画延長 L=6.2km

計画幅員 車道部 7.0m（2 車線）

（事業費減少の主な理由）

当初、香住 IC は香住道路にて完成ランプ形状で供用予定であったが、用地難航により、完成ランプ形状での供用が出来なくなったため、暫定供用することとなった。そのため、残事業として残ったランプ工事を余部道路で実施することとなったため、総事業費が減額となった。

余部道路

【平成 21 年度（再評価）】

総事業費 C=約 227 億

事業期間 H12～H22

計画延長 L=5.3km

計画幅員 車道部 7.0m（2 車線）

【平成 22 年度（事業完了）】

総事業費 C=約 226 億

事業期間 H12～H22

計画延長 L=5.3km

計画幅員 車道部 7.0m（2 車線）